

赤土流出止めよう

久米島小生 ベチバー植栽



ベチバーを植栽する久米島小学校5年生と協力者ら＝2月21日、久米島町儀間のサトウキビ畑

【久米島】赤土流出対策に取り組んでいる久米島町立久米島小学校（松元慶子校長）5年生13人

が2月21日、同町儀間のサトウキビ畑でベチバー（イネ科）を植え付けた。児童は総合的な学習の時間を利用して、1年間にかけて久米島の自然環境と人との関わりの変化を知り、赤土対策への理解を深めるために学習している。

儀間老人会から昔の生活や自然の様子聞き取りを行い、久米島ホテル館では自然を取り戻す方法や現在の自然環境の状況を学んできた。今回は、どの地域の畑の赤土流出が川に影響を与えているかを考え、農作物の成長を邪魔せず赤土対策ができるベチバーを、町や久米島ホテルの会、海を守る会の協力で約100株植え付けた。

東佳裕君は「植えたベチバーが畑の赤土を止めて、サンゴや儀間川の魚などがどんどん増えていけばうれしい」と話した。（盛長谷子通信員）